



# NEWS LETTER

## 11/2(木) 第6回河北圏域で開催

盛岡市では、11/2(木)に盛岡市上田公民館において、今回、第6回目となる「地域福祉ワークショップ」を開催しました。

このワークショップは、令和7年度を始期とする「第3期盛岡市地域福祉計画」の策定にあたり、今年度、市内各地区のみなさんから、「人と人がつながり、共に支え合うまちづくり」を大きなテーマに、各地区での現在の取組と、将来への希望などのご意見をうかがうために開催しており、日常生活圏域に基づき7つに分けて行います。

第6回は、河北圏域のうち、西厨川・桜城・仁王・上田圏域を対象として実施し、7グループに分かれて、参加者35名が意見交換を行いました。

### 【当日のタイムスケジュール】

18:30	<b>■ 開会</b> ・市地域福祉課長より挨拶がありました。 ・続いて、地域福祉課福祉企画係長より趣旨説明がありました。 ・本日の進め方（グループごとの話し合い）について説明のあと、グループごとの話し合いが始まりました。
18:45	<b>■ グループごとの話し合い</b> 各グループには、参加者の話し合いのサポートをする進行役が1名入りました。進行役には、大学生6名も参加しました。 ・はじめに、グループごとに自己紹介の後、「地域の交流、顔の見える関係づくり、安心して暮らせる地域づくりのために」 ①今、地域で取り組んでいること ②これから取り組みたいこと などについて話し合いました。
20:00	<b>■ グループ発表</b> 各グループで話し合ったことを発表し、参加者全員で確認しました。また、話し合った内容のまとめを行いました。
20:30	<b>■ 挨拶・閉会</b> 本日の全ての話し合いを終えて、市地域福祉課長より挨拶がありました。 また、事務連絡の後、アンケートへ記入いただき、閉会となりました。



▲会場風景その1

▲会場風景その2

## 広報活動による魅力発信や学生との交流機会の創出

河北（西厨川・桜城・仁王・上田）圏域のワークショップで話し合われた内容の一部をお伝えします。

### 現状と課題

#### 高齢者の活動

- ・ひとり暮らし高齢者の見守り。
- ・老人クラブの活動（お茶会、名月を愛でる会、研修旅行ほか）。
- ・認知症を学び、支え合う活動。
- ・ふれあいサロン活動、シルバーリハビリ体操。
- ・医師を招いての講演会、健康づくりの活動

#### 町内会の活動

- ・環境活動、資源回収等の実施。
- ・子どもの登下校見守り活動。
- ・夏まつり、音楽祭、文化祭の開催。
- ・ビアフェスタ準備の手伝い。
- ・広報活動（かわら版の発行）、若い住民への情報発信。
- ・外国人留学生と接する機会が増えている。

#### 子ども会の活動・世代間の交流

- ・町内会と子ども会の交流。
- ・子どもと大人の交流（えだまめ・サツマイモ作りほか）。
- ・中学生による地域探求の活動。
- ・子どもたちを対象とした寺子屋活動（高校生の参加）。
- ・中学生が町内会行事の運営に参加。
- ・地域行事への岩手大学生の参加や出演の声かけ。

#### 課題

- ・コロナ後の活動をいかにして、再開・復活するか。
- ・行事参加者が毎回同じような顔ぶれとなっている。
- ・世代間のギャップ、価値観の多様化、活動に集まりにくくなっている。
- ・マンションやアパート暮らしの人々とのコミュニケーション。
- ・地域活動の担い手不足、いかにして若い人につなぐか。

### 今後に向けて

#### 助けたり助けられたりする関係づくり

- ・ひとり暮らし高齢者との交流の推進。
- ・地域における顔の見える関係づくり。
- ・困った時に助けて欲しいと言える関係づくり。

#### 地域の大学生らとの交流

- ・岩手大学生を巻き込んだイベントの実施。
- ・岩手リハビリテーション学院、岩手看護専門学校との交流。
- ・外国人留学生との交流機会の創出。

#### 地域の担い手・後継者づくり

- ・子ども会活動の促進や活動への支援。
- ・三世代交流の機会づくり。
- ・広報活動による若い人への情報発信と人材の掘り起こし。
- ・地域の魅力や伝統を伝える活動の実施。
- ・幅広い世代による話し合いの場づくり。
- ・町内会運営のマニュアルづくり。
- ・タブレットやスマホ等 I T 機器の活用による活動の効率化。
- ・専門性を有する外部人材の活用の検討。



▲グループ発表の様子

### アンケート結果より 参加した方々からの感想を紹介します。

- ・皆が意見を出して、納得する部分が多かった。
- ・的確にポイントを突いて、次々と進めていました。
- ・学生さんと補佐係が連携良好。
- ・学生が進めるのは新鮮だった。地域づくりに役立ててほしい。
- ・自分が考えていることと似たような考えがあった。異なる視点での意見も聞けた。
- ・各グループの発表も分かりやすく、聞きやすかったし、参考になった。
- ・当グループは、気心の知れたメンバーで、年に何度も会って今回のような話し合いを持っており、もっと他地域の方と語り合いたい。
- ・このような会に世代ごとの人々が集まったらと思う。今回は高齢者の集会ですね！！
- ・「近助」で助け合う地域。30代～60代世代に行事に参加してもらいたい。
- ・みんなで明るく挨拶できる、顔が見える地域にしたい。
- ・小さい町内会で集合住宅が建ち始めて、新しく町内会に入ってきた人と、古い会員の交流が少しずつ活発になってきているので、今後も新旧問わず交流ができる町。

### 進行役からひとこと！印象に残ったこと

- ・町内会の方々は本当に様々な取り組みを行って下さり、課題への対策もしっかりと考えてらっしゃるということを感じました。勉強になりました。一人ぐらしの学生も多い圏域であると思うので、学生を巻き込める企画の計画や周知が必要だと感じました。
- ・今回の都市部「仁王地区」のみなさんの意見はとても新しいと思いました。若い人が多く、とても人々が活発化しているイメージがありましたが、新興住宅の人々、もともといた人々との価値観が合わず、実際は連携に苦労していることに驚きました。
- ・町内会・子ども会との繋がりがとても強いと思った。子ども会に所属している小学生だけではなく、中高生も活躍できる環境づくりが素晴らしいと思った。
- ・私の班の人々は大学生との交流がないらしく、他の班と異なるように感じた。
- ・地域住民は意外と自分の地域の魅力に気づいていない。だから地域住民向けのアピールを長く行っていくことが大事である。子どもにとって故郷なのだから、住みたいまちにしていかなければならない。
- ・自分は実家暮らしですが、中学校を卒業し、子ども会が終わってから町内会と関わる機会がなくなりました。現在はどうな活動がされているのかも知らない。これまで参加したワークショップをきっかけに、自分の町内会に目を向けてみようと思う。